

椿咲く頃

今瀬剛一

こんなにも落ちいまだ咲く椿なり

顔に陽の射す早梅を見上げけり

囀や呼び出されたるごとく立ち

雪消えてありありと母逝きたる日

土かがやいて耕運機大曲り

花曇鳥曇待つことに馴れ

よそ見してゐしが芽吹きに囲まれし

花の昼流れ残りに似たるかな

眼の高さ胸の高さに椿咲く

別の世へ傾いてゆく花ふぶき

春炬燵片づける気などさらになし

蝶生まれ神様までの距離思ふ

傾ぎたるまま芽吹く樹となりにけり

春一人カラオケといふ秘密めく

顔をぬらしてしやぼん玉果てにけり